

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0176700391		
法人名	社会福祉法人稚内木馬館		
事業所名	グループホームひだまり		
所在地	稚内市はまなす2丁目9番25号		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果市町村受理日	令和4年9月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○穏やかで温かい雰囲気の中、職員が利用者に寄り添いながら喜怒哀楽を共有して、利用者一人一人のニーズに応じた、その人らしい生活が送れるように支援をしている。
 ○利用者の高齢化や重度化が進行する中で、利用者一人一人が安心して暮らせるように医療機関等との連携を強化して、利用者本位(主体)の適切な介護サービスを提供している。
 ○同一敷地内に隣接している障害福祉サービス事業所との連携・協力により、一体的な運営に努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0176700391-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和4年6月13日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は市街中心部より程近い、はまなす地区に位置し、稚内空港や交通、買い物にまで静かな海沿いに立地している。母体である社会福祉法人は、特に障がい・児童分野において多様な福祉サービスを展開しており、グループ機能を活かした質の高い連携を図っている。当事業所は、障がい者、そして家族の高齢化に伴い、双方を支援するという思いで開設された。医療面は、事業所に配置の看護師による健康管理・受診対応が行われ、協力医療機関、家族との連携にて、ターミナルケアにも対応出来る体制が整備されている。職員は、コロナ禍で制限が多い中、感染防止に留意しながら、個別に近隣への散歩やドライブ等、短時間でも外気に触れる機会作りを努めている。また、定例で担当者による個人誌を発行し、利用者の生活状況や健康面、気付き等を家族に伝えている。今後も利用者の自立心、自尊心を大切にしたいケア理念の更なる実践に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の運営理念は、毎月の職員会議で全職員と共有し、常に念頭に置いてもらい、介護業務等の実践に繋がるようにしている。	法人理念の他、全職員で意見を出し合って作成した理念を掲げ、日常的に共有している。また、介護姿勢、理念の達成度について定期的に職員会議の場で検証、協議しながら、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はない。町内会の活動には積極的に関わるようにしており、祭典の神輿巡行や廃品回収等に参加している。運営推進会議の委員に町内会長を委嘱し、密な情報交換等を図っている。	現在はコロナ禍で相互に自粛傾向にあるが、通例では、積極的に地域行事や廃品回収等に参加したり、ホームの避難訓練などに協力をお願いする等、相互の協力関係作りに注力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェ等は開催していない。大学生、専門学生、衛生看護科学生、介護福祉士初任者研修等の実習生の受け入れ、小中学校の職場体験学習等の受け入れをしている。RUN伴への協力、参加をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業目標、職員研修、利用状況、行事実績等について報告して、意見交換をしている。頂いた意見等については、サービス向上のため活用している。委員は、実際に行事に参加していただき利用者との交流も図っている。	家族、地域代表、行政等の参加を得て、定例で開催している。社会福祉法人としての年次の事業計画・報告、運営状況やヒヤリハット・事故等まで論議され、参加者から意見を聞き取り、運営に活かしている。議事録は家族に送付しており、お便りの他、事業所全体の様子も伝えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	稚内市と日常的に連絡を密に取ることはない。事務的なことで必要に応じて連絡を取っている。市町村事業には積極的に参加・協力するようにしている。運営推進会議委員に市職員を委嘱し、行政情報の共有と家族等への発信も行っている。	行政窓口から情報提供・アドバイスを得ている。また、市事業への参加・協力や運営状況や事業所での取り組みについて報告し、情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内委員会の「虐待防止委員会」、事業所内に設置している「身体拘束適正化会議」で定期的に職員研修を実施している。毎月の事業所内会議では、身体拘束適正化会議の報告も行っている。	法人全体で虐待防止委員会を設置、毎月開催しており、事業所内会議の場で全職員に周知している。全利用者の現状の確認と不適切なケアについて、具体的な事例を職員間で協議し、改善している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内委員会の「虐待防止委員会」が主催する職員研修を定期的実施している。高齢者虐待防止法、障害者虐待防止法、職員倫理規程等の説明を行い、職員の虐待防止に関する注意喚起に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度を利用している入居者はいない。今後、必要に応じて活用できるように職員研修等を実施したいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約締結時、改定がある場合は、重要事項説明書、運営規程、その他通知文書等の内容を十部に説明して、不安なことや疑問点等がなく、しっかりと理解をして同意していただけるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所のサービスに満足していただいているかなどのアンケートは実施していない。何か意見や要望があれば直接事業所の職員に伝えてもらっている状況である。玄関等には、苦情受付箱を設置している。	本人・家族が意見・要望を話しやすい関係作りを心掛けている。感染防止に留意・工夫しながら、面会も弾力的に再開している。個人誌を2ヶ月毎で送付し、生活状況や健康状態等について伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼、毎月の事業所内会議、年2回の個人面談等を実施して、職員の意見や要望を把握して事業所運営に反映している。	主に朝礼、月例会議の場で、職員が自由に意見を述べる機会があり、皆で検討し、ケア手法や業務の改善に活かしている。管理者は定例の個別面談の他、随時相談に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境等の整備は日常的に行っている。毎月の事業所内会議でも業務改善に関する意見等を出してもらい協議をしている。法人として職員の資格取得に向けた助成を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に現場の職員が求める介護技術等の内部研修会(学習会)を実施している。個人での自己研修等に関する助成もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者等との交流はほとんどない。稚内市が主催する会議や研修会で意見交換や交流がある程度である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が納得して入居できるように入居前の見学や体験利用等も実施している。困っていることや不安なことがあれば、こちらからアプローチをして、少しでも不安や不満が早期に解消できるように努めている。安心、安全、快適にグループホームで生活が送れるように利用者との信頼関係が構築できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にも納得して事業所を利用してもらうため、入居に当たり困ったことや不安がないかを確認している。家族の希望や思いも介護計画に反映できるような聞き取りをして、家族との信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の意向に沿って、介護支援専門員等と交えて協議し、今必要としているサービスや支援方法等を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護サービスを提供する職員と介護サービスを受ける利用者という関係だけではなく、共にグループホームで一緒に暮らす同居人としてお互いに支えあって、役割分担等をして、信頼関係が構築できるように努めている。本人の「できること」「活躍できる場面」等を日常生活に取り入れている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に寄り添い、家族の立場になって、職員と家族が共感できるように密に連絡を取るよう心掛けているが、すべての家族とはできていない。利用者と家族が疎遠になっているケースが多くあり、共に本人を支えていく関係を築くのは難しく感じる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に使用していた馴染みのある物等を持参してもらっている。家族や親戚、友人等との関係が途切れないように配慮している。今まで利用していた馴染みのある理美容室等に通えるように努めているが、身体機能の低下により物理的に通えなくなったケースもある。	通例では、希望する馴染みの場所への外出は職員同行、または家族の協力を得ながら、支援している。コロナ禍であるが、感染防止に留意しながら弾力的に面会を再開し、関係が断たれないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の特性、嗜好や趣味等に応じて、相性を考慮したうえで他利用者との交流を図り、気の合う利用者同士の関係性が構築できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了する場合、逝去されることほとんどであり、退去後に家族等と連絡をとることはほとんどない。過去に利用されていた利用者家族が運営推進会議の委員となっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位(本人主体)の考えで、利用者本人と家族の希望や意向に沿えるように努めている。利用者本人から希望や意向を聴くことが困難な場合は、家族の希望、意向を聴いたり、日常の言動等から把握して、職員間で検討するように努めている。	職員は日々の生活に寄り添いながら、思いや意向を汲み取り、情報を共有して、本人本位な暮らしとなるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人、家族、関係機関等から生活歴等の情報を把握している。入居後も日常会話の中から情報収集したり、アセスメントして、サービス提供に活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子、心身状態、本人の「できること・得意なこと・現在の有する能力」等の把握に努めている。毎日の朝礼、毎月の事業所内会議等で職員間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の希望や意向に沿った介護計画の作成に努めている。定期的なモニタリングを実施すると共に心身状態等に変化がある場合は、その都度見直しをしている。可能な限り、本人、家族、関係者等から意見を反映させるように努めている。	介護計画の作成は、個別に期間設定を行っており、状況変化時には都度見直している。日々のモニタリング結果を基に、全職員の視点で課題評価を行い、本人と家族、医療機関の意見を踏まえて、現状に即した介護計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画と介護記録が連動し、記録から計画が見えるような記入ができるように努めている。職員間で情報共有を図り、日常の様子、少しの気づき等も計画に反映できるように心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々で生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で発生する新たなニーズ等については、職員会議等で協議をして、家族や関係機関と連携を図り対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握や活用はできていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿って、適切な医療が受けられるよう努めているが、地域性もあり、希望する医療を受けることができない場合もある。	本人、家族の要望を伺い、かかりつけ医とのつながりを大切に支援するよう努めている。また、協力医療機関への受診結果については、お便りや電話で家族に伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に看護職員と利用者の心身状態等について共有しており、利用者の希望や状態に応じて受診等の適切な対応を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関等と情報共有を図っている。利用者の特性に応じた対応等が入院中にも継続できるように調整、相談をしている。元病院関係者が事業所に在籍していることもあり、連携がスムーズに行えることもある。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けた本人の意向を聴き取り、定期的に意向確認をしながら介護計画等に反映させ支援している。終末期には、事業所が支援できる内容を説明し、家族等の希望に応じて、医療機関と連携を図り支援している。	契約時に指針を文書で説明し、同意書を得ている。また状況に応じて、医療機関を含めて話し合い、本人や家族の意向に沿って介護できるように、事業所に配置の看護師を中心に職員間で情報共有に努め、取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED設置、事故対応マニュアルを作成している。利用者の状態等に応じて予測される事故等の対処方法を共有している。数年に1回、救急救命講習を実施しているが、昨年度、今年度は開催されていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害訓練を定期的実施している。地震・火災訓練(夜間・日中)は、年2回実施している。津波訓練は、日中想定で高台まで避難する訓練を実施していたが、利用者の重度化により今年度の訓練は実施していない。地域との協力体制は難しく関係を築けていない。	マニュアルを基に、定例で火災を想定した避難訓練を実施している。現在、地域との相互の協力体制や役割を再度、職員間で検討している。	自然災害、特に津波を想定した訓練の充実と家族、関係者への避難場所の周知を検討している。計画の進展に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人本位(本人主体)の考えで、利用者一人一人の個性等を尊重し、理解して、個別対応ができるように努めている。	不適切な言動や声掛けがあれば都度、職員間で注意喚起し、ミーティングで検証している。個別に対応し、利用者の尊厳を損ねる事のないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりの中で本人の希望を取り入れたり、選択させる場面を設け、出来るだけ自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームに日課は決まっているが、一人一人のペースでその日の気分や体調に合わせて過ごすことができるように努めている。すべての利用者に応じることが困難なこともあるが、できる範囲で対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活における身だしなみに気を付けるよう努めている。2ヶ月に1回、訪問美容を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は、好みに合わせてパンか米飯が選択できるようにしている。利用者の「できること・得意なこと」を活かして、職員と一緒に盛り付けをしたり、後片付けを行っている。	現在はコロナ感染防止対策として、食事準備の手伝いを最小限で行い、支援している。通例では、職員と同席同食を原則として、日常的に楽しみある食事の場としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作成し、栄養バランス等に配慮した食事を提供している。利用者一人一人の体調や嚥下機能に合わせた食事形態に加工して対応している。食事量や水分量の把握をして、必要に応じて主治医等と共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、就寝前に義歯洗浄、スポンジブラシ等の口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排せつの習慣を把握して、声掛けやトイレ誘導により、なるべくトイレで排せつできるように支援している。	排泄はトイレで行うことを基本とし、チェック表を用いながら、排泄の誘導も時間と仕草を読み取って行っている。食べ物や軽い運動も取り入れて、自然な排泄になるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、軽体操やレクリエーションを実施している。主治医と相談をして、下剤等による便秘予防を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定は立てているが、本人の体調や希望に応じて入浴時間帯を変更したりしている。湯の温度や入浴剤を使用して、できる範囲で本人の希望に沿って入浴が楽しめるように支援している。車椅子の利用者でもリフト浴をして安全・安心に入浴ができています。	時間帯や入浴回数等、利用者の希望に応じて、快適な入浴となるよう支援している。同性介助の希望にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間は、利用者の希望や生活習慣に合わせて対応している。安眠向上のため、足浴をしている利用者もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の服薬状況等について確認ができるように保管している。服薬実施状況は記録等により常に確認はできるが、全職員が用法、用量、副作用等について理解できていない。看護職員が中心になり、薬の目的や副作用、用法、用量等については把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の「できること・得意なこと・好きなこと」に着目して、日中活動に活かしている。野菜作り、花畑の手入れ、買物、外食、ドライブ等の外出も可能な範囲で実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者一人一人の希望に合わせて、可能な範囲で対応している。行事として、定期的な外出支援を実施しているが、利用者の重度化やコロナ禍の影響により、外出は少ない。家族や地域との連携は難しく、協力体制にはない。	通例では、日用品の買い物や季節の行事・ドライブを楽しんでいる。現在は感染防止に留意しながら、事業所敷地内や近隣での外気浴、テイクアウトの料理を用意し、外食気分を味わえるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な利用者は、所持をして、宅配サービス等を利用してお金を使っている。自己管理が難しい利用者は、事業所で預り金管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人等に電話をしたり、手紙を書いたりと自由に行えている。電話機の操作やポストへの投函は職員が支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは、すべての利用者が安心・安全・快適に過ごせる環境作りに努めている。季節を感じられる飾り付けや行事等の写真を掲示したり工夫している。	共用スペースは、温・湿度が適切に保たれている。職員と利用者が共同で作った作品が飾られ、明るく清潔で安全な環境作りに留意し、楽しみある生活が出来るよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、ホール以外にソファを設置したり、それぞれの居心地の良い空間作りの工夫をしている。利用者一人一人の特性や性格に配慮して、気の合う利用者同士の交流もできている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物や馴染みのある物を持ち込み、居心地の良く過ごせるように工夫している。家具、仏壇の持ち込み、家族写真の掲示等をしている。	居室には、自宅から使い慣れた家具や生活雑貨が持ち込まれている。状態の変化が見られた場合は、本人や家族と相談して整理・模様替えを行い、安全に安心して過ごせる環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、スロープ、エレベーター等を設置した、最低限のバリアフリー構造にはなっている。トイレは、車椅子を想定した構造になっておらず、スペース的に介護が大変である。浴室には、リフトを設置している。		